

業務要求水準書（案）の作成について

再検討に当たっての基本的考え方 (平成27年8月14日 関係閣僚会議)



新国立競技場整備の基本的考え方

第3章 第1節

新国立競技場は、明治神宮外苑の歴史と伝統ある環境の中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「オリンピック・パラリンピック競技大会」という。）のメインスタジアムとして建設される。

すべての競技者が最高の力を発揮し、世界中に感動を与え、東京大会を成功に導く場となり、そのよい遺産として、後世の人々に長く愛され活用される施設となることが望まれる。

そのため、

- 人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム
- 周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム
- 地域の防災に役立ち、地球全体の環境保存に貢献するスタジアム

を施設整備のコンセプトとして、できる限りコストを抑制し、大会開会式に間に合うように確実に完成させる。

業務要求水準書（案）の作成の方針

第3章 第2節～第4節

1. できる限りコストを抑制し、現実的にベストな計画となるよう、白紙撤回前の基本設計等の水準から縮減する。
2. メインスタジアムとして適切なものとなるよう、白紙撤回前の基本設計等の検討結果を業務要求水準書に活かす。
3. 陸上競技、サッカー等のフィールドやスタジアム施設の競技規則等に対応する。
4. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会からの要求事項に対応する。